

コミュニティ・スクール福間 令和7年度 福津市立福間小学校 経営要綱

校長 安河内 友美

Ⅰ 学校経営の基本構想

Ⅰ 学校経営の基本

(1) 法令並びに国の動向より

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行うものです。

これから少子化による生産年齢人口が減少することが見込まれ、予測困難な変化の著しい時代の到来を感じる今、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。また、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える「共生社会」の実現も積極的に取り組むべき重要な課題です。このような時代に生きていく子供たちには、教育の場で、障害の有無や個性の異なる他者と共に過ごし、互いに学び合う経験が大変重要です。

子供のよりよい成長のためには、子供を取り巻く人々が子供の主体的な学びに対して効果的に支援・伴走することが必須です。情熱と使命感、協働性、専門性を備えた教師による指導支援や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動を通じて、児童に備えさせたい資質能力が身につくよう創意工夫すること、関わる大人がよき援助者として率先垂範することが求められます。

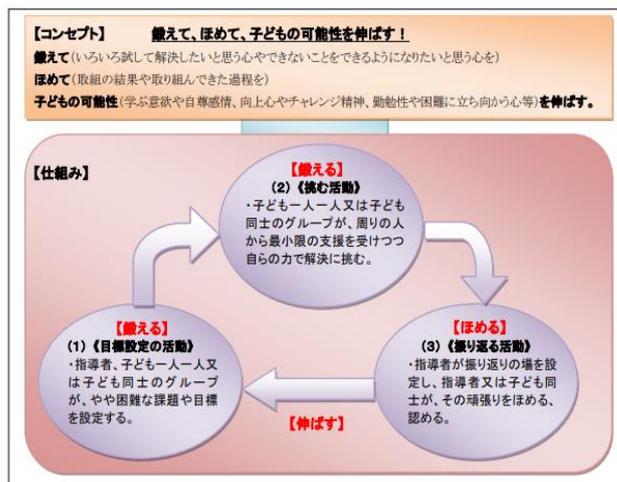
(2) 福岡県の教育施策より

福岡県では、独自の『鍛ほめ福岡メソッド』を展開し、「子ども本位」の指導を推進しています。

具体的には、いろいろ試して解決したいと思う心やできないことをできるようにになりたいと思う子どもの心を「鍛え」、取組の結果や取り組んできた過程を「ほめて」、学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心などの「子供の可能性を伸ばす」ものです。この仕組みの過程で、振り返りによる気づきや見通しの活動を意図的に位置付け、子供自らが主体者となるよう働きかけていくことが重要です。

教育は、子どもに関わる大人たちが共通の認識に立ち、同じ方向を向いて働きかけるからこそ、その効果が高まります。学校内はもとより、家庭、地域が教育課題を共有し、同じ方向を向いて協力し合いながら、子供が自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成していきます。

■「鍛ほめ福岡メソッド」



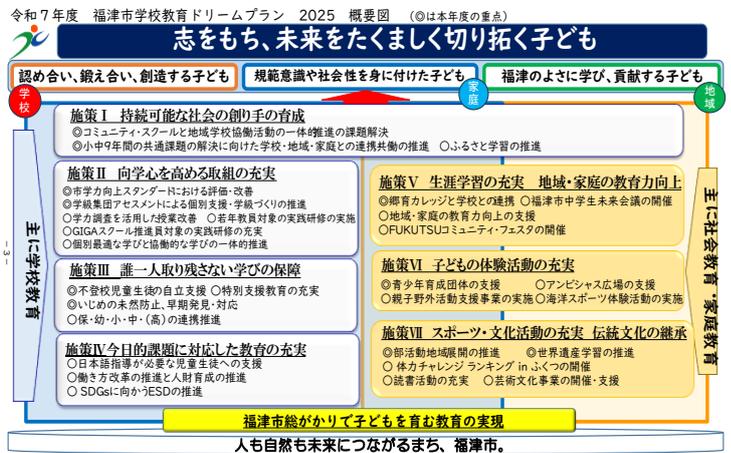
(3) 福津市の教育施策より

福津市ではこれまで、全ての市民を対象に「地域を担う人財育成」に取り組んできました。ふるさと福津を愛し、地域の子供たちを地域人として育てる好循環のあるまちづくりの中で、子供たちが、「ひと、もの、こと」「過去と現在」から多くの大切な心や生き方、知恵を享受し、豊かに成長していくことが望めます。

小学校段階においては、多くの人のあたたかさや地域資源のよさに触れ、人々や社会に対する感動や感謝の心を膨らませ、中学校段階における地域貢献への礎を育てていきます。

福津市学校教育ドリームプランでは、「志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども」の育成を目指しています。引き続き、「ふるさと学習」「学級集団アセスメントによる個別支援・学級づくり」「不登校児童の自立支援」「いじめの未然防止、早期発見・対応」「特別支援教育の充実」「保・幼・小・中・高連携」に力を注ぎます。

【福津の地域の創り手の人財育成ビジョン】



(4) 地域の実態と福間中学校ブロック3校共通共育目標

福間地域は、豊かな自然と活気にあふれ、「住みたいまちランキング」でも常に上位に上がる魅力的な地域です。近年、人口も劇的に増加し、校区3校共に全国的にも屈指の過大規模校です。

子供たちは歴史と伝統、自然豊かなまちの中で、地域のさまざまな世代や立場の人たちに囲まれ、大切に育てられています。そのような子供たちが、いつまでもふるさとを愛し続け、出会った人との絆を大切にしながら、自分の未来を切り拓き、生涯学び続けてほしい、そのような思いから、地域と共にある学校「コミュニティ・スクール」として、家庭・地域と連携・協働し、全力で義務教育段階9カ年の子供たちを育てる目標として、次のように3校共通の教育目標を設定しました。

福間中学校ブロック3校共通共育目標

福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成

目指す子ども像【生きる力】

知	徳	体	絆
自ら考え、表現し、対話を通して高め合う子【学力】	多様性を認め、自他を尊重する子【心力】	困難に負けない体をつくる子【体力】	地域に働きかける子【貢献力(参画力)】

2 本校が目指す姿

(1) 教育課題と経営課題

福間中学校ブロック共通目標に照らし、本校の教育課題と経営課題は以下のとおりです。

【教育課題】

- 学力低位層の解消と確かな学力の向上
- 自ら進んで課題をみつけ、他者と対話・協働しながら解決していく力の育成
- 自他の個性を尊重する態度と自己肯定感の高揚
- 不登校や不適応を示す児童の実態とニーズに応じた個別最適な学びの保障
- 地域行事に参加する、地域に学び地域に働きかける意識や態度の醸成

【経営課題】

- 超過大規模校における児童の活動や活躍機会の創出
- 主体的・対話的で深い学びを推進する授業改善
- 教育課程、各種教育活動と地域学校協働活動の関連性の強化
- 超過大規模校における機能し人財が育つ組織改善と仕組みづくり
- 教育のプロとしての専門力量と協働性、熱意と愛情あふれる教職員の育成

(2) 具体的目標

① 目指す子供像

- 「こうなりたい」「できるようにになりたい」と意欲と期待感をもち、進んで努力する子供
- 自他を大切にし、他者との違いを活かしながら、知恵を出し合い、支え高め合う子供
- 自分の健康について考え、進んで体力や生活力の向上に励む子供
- ふるさとのよさを感じ、地域のために働きかけ、さらなるよさを感じ取る子供

② 目指す学校像

- 子供と子供を取り囲む教職員や保護者、地域の方々との挨拶や心の通い合いのある学校
- 一人一人が大切にされ、居場所や子供の特性に応じた学びが保障された安全で安心な学校
- 学びと集いの喜びがあり、成長や達成感、幸福感が得られる学校

③ 目指す教師像

- 子供への愛情と教育への使命感、責任感をもち、児童理解に立った伴走的指導ができる教師
- 令和の日本型学校教育の実現に向け、創造的、主体的に実践し、自己研鑽に励む教師
- 自らを律し、服務に厳正で、信頼され、子供に範を示すことができる教師
- 重点達成のために組織の一人として、目的的、創造的、協働的に教育活動を行う教師

④ 目指す家庭像

- あたたかい居場所と対話、かかわりの中で、基本的生活習慣や自立の基礎を育む家庭
- 子供の話や姿に心を傾け、よき理解者として温かく見守り、励まし、関係者をつなぐ家庭
- 子供とともに、地域のひとやもの、ことと関わり、学校・地域づくりに参画・協働する家庭

⑤ 目指す地域像

- 学校における取組の方向性や課題に関心をもち、共働して様々な活動を推進する地域
- 「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」として共に支え合う関係を推進する地域

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に協力する地域
- ⑥ 目指すコミュニティ・スクール像
 - 「めざす子ども像」の具現化にむけて、学校・家庭・地域が連携・共働するC・S
 - 小中9年間の連続性を重視し、「豊かな学び・体験・交流」を視点にした教育活動を実践するC・S
 - コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を行うC・S

II 本年度の重点

I これまでの積み上げや前年度までの成果と課題

【重点目標】

本校では、この2年間、重点目標を

令和5年度 「あいさつ、なかよし、がんばりを 大事にする子供の育成」
 令和6年度 「あいさつ、なかよし、がんばりを つくり、広げる子供の育成」

とし、「あいさつの種」「なかよしの種」「がんばりの種」をキーワードに子供を育成してきた。この「3つの種」のキーワードは子供たちにも浸透し、姿としても一定の成果を上げてきた。

【まなび】

- 各種調査結果の全体的な傾向としては、およそ全国や県の平均をやや上回る状況にある。
- 自主的に学習に向かい、考えたり話し合ったりする児童が多い。
- 学びのモデル提示等を行い、学びに向かう姿勢や共に学ぶためのルールが定着してきている。
- 目的に照らして互いの考えを比べたりつないだりすることにやや課題がある。
- 前学年までの学習内容が未定着の児童や学力低位層、学業不振の児童が一定数存在する。
 ※学業の不振は、学級や学校への不適応の大きな要因のひとつとなっていると考えられる。
- 対話活動は定着してきたが、対話の目的・内容の明確化や適切な方法の選定には課題がある。

【こころ】

- 朗らかにあいさつをし、元気がよく、素直で活発な児童が多い。
- 「学校が楽しい」「学校やクラスをよりよくするために学級や学校の仕事に進んで参加している」と回答した児童が多い。(肯定的回答9割以上)
- Q-Uの結果からは、親和的で居心地のよい学級集団づくりがほぼできていると言える。
- 自尊心が低く、自分のよさに気づくことができていない児童が一定数存在する。(2割程度)
- 不登校や不登校傾向、学校や学級への不適応を示す児童が一定数存在する。
- いじめの認知件数が格段に向上した。(R5…8件 → R6…345件)
- 不登校児童の10名程度が教室復帰をすることができた。
 ※あたたかな学級づくりや担任による関わりの良さに加え、教職員の相談会や研修、組織的な対応、保護者と子供を交えた応援会議等を実施の成果か。

【からだ】

- 体を動かすことが好きな児童が多く、体力テストの結果が向上してきている。
- 場所が限定される中、ラジオ体操や大縄跳びに取り組む等、体を動かす機会を設定している。
- 体力テストにおける柔軟性・瞬発力の数値が低い。
- 運動の種類が限定的で、運動が苦手な児童の運動習慣が低い。

【ふくまカリキュラム】

- ゴールと過程を明確にした単元づくりができてきている。
- 地域コーディネーターやふくサポさん、地域の方々等とのかかわりにより、地域や人のよさに触れ、豊かな学びを得ることができている。
- 招待状を書く、挨拶をする、お礼を述べる、帰りを見送るなど、目的や思いをもって行動する姿が多くみられる。
- 学習で学んだことが児童や教室内に留まりがちで、校内や校外、家庭への発信が必要である。
- 相手先への早めの打診や校内における連絡調整等、外部連携の際の配慮事項を充実させる。

2 本年度の重点目標と経営の重点目標達成のための方途

1 本年度の重点

令和7年度は、これまで浸透し、身につけてきた「あいさつ」「なかよし」「がんばり」を手段とし、目標達成に向けて主体的に行動する児童を目指し、以下のように重点目標を定めます。

**あいさつ なかよし がんばりで（笑顔の）花を 育てる 子供の育成
～目標に向かって自身の力を発揮し、自覚的に試行錯誤する子供～**

【子供が目指す目標】 笑顔の花 = 成果、達成感、納得感 目標

【目指す態度】 育てる ≠ 咲かせる ≠ 育ててもらう
= 主体者となって努力する、他者と協働する、調整する

【目標を達成する手段】 「あいさつ」「なかよし」「がんばり」
= 課題解決のための「生きる知恵」

具体的目指す姿は以下のとおりです。

「こうなりたい」と願いをもつ
方法を考えて取り組む、努力する
目標達成途中の状況についての考えをもつ
目標達成のための方法や態度のよさや課題に気づく
目標の微調整や方途の見直しや調整を行う
自分の行動のよさと次に向けた課題、見直しをもつ

【大切にしたい姿・力・キーワード】

努力する 試行錯誤する 見直しをもったり調整したりする 援助を求める
悔しがる 諦めない 悩む、考える うまくいっている状況や方法を喜ぶ
試行錯誤の中から「知恵」を見出す 少しの伸びやよさを見出す
援助資源（人や環境等）への気づきを得る 支援に対する感謝の念をもつ
人とつながる 感謝の言葉を伝える 自身がよき支援者・協力者になる

※ 目標達成そのものをねらうのではなく、その過程のよさや状況を支援し、励まします。

2 目標達成のための経営の重点と具体的な方途

(1) 学校経営の構え

超過大規模校の特徴を最大限に生かすとともに、信頼され、成果を上げる学校となるよう、次のようなことを重視します。

超過大規模校の特徴を活かした学校体制づくりの構築

～数の多さを強みとする教師の主体的かつ協働的な教育実践・自己研鑽の創出～

◆生徒指導の4つの視点を生かした 安心・安全な学校風土づくり

(自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全・安心な風土の醸成)

- ・ R7 はこれまでの取組に加え、「副担任制」を意識し、支え合い、開かれた学級づくりと全教職員で子供を見守り、支える意識と仕組みづくりを整えていきます。
「一部教科担任制」「専科指導」「特別支援学級と交流級」「学年・特支チーム」
「相談会」「応援会議」

◆責任をもった誠実かつ組織的な対応の徹底

- ・ 自分の担当業務には自身のよさを最大限に発揮し責任をもつとともに、一人で抱え込まず、他者と協働してよりよいものを目指し、自身も成長する心構えをもってあたっていきましょう。
「今」「一人」のことは、「未来」「次の学年」「全体」に波及していきます。
敏速な「報告・連絡・相談」を心がけ、客観的な記録の累積と組織的な対応にあたりましょう。

◆目的達成に向けて協働する学年やチーム活動の充実

- ・ 目的や内容、方向性の協議や共有を行う「チームリーダー会議」「学年主任研修会」等と目的、創造的な提案や教育実践を行う「チーム会議」「学年研修会」等の往還を充実させます。
- ・ 決定したことは、全教職員、全校児童で積極的に取り組みます。

◆子供の心理的安全を保障し、主体的な学び手とするための研修の推奨、充実

- ・ 子供にとって学校における最大の環境の一つは「教師」としていても過言ではありません。また、学校生活の大半は主として学習活動です。これからの時代を生きる力がつくような学習指導、支援をしていくことがとても重要です。授業で子供が学びと集いのよさを実感し、力をつけていくことができるよう、一人一人が指導内容の分析と教材研究、児童理解、授業実践、評価…と子供と自身の担当分掌と自分自身に真摯に向き合い、研鑽する姿勢を大切にします。子供が主体者になるためには、まず、教師自身が主体者となることが第一です。自分の強みや伸ばしていきたいことを自覚し、主体的に学び、力量形成をしていきましょう。「子供のせい」「保護者のせい」にすることは、何の解決策にもなりませんし、論外です。職員研修や面談、学年研修会等の場を積極的に活用するとともに、自ら学びの機会を求める姿勢を大切にしていきたいと思います。

◆地域の中にある学校の使命と、時間軸の過程にある今の自覚

- ・ 子供は、家庭、地域から学校に通ってきます。そして、日々、成長しています。お預かりしている子供は、卒業した後、中学校、そして、社会で生きていきます。また、家庭をもち、地域や社会を担う存在にもなるでしょう。家庭、地域とともに目標の共有と協働を進め、今と未来の両者を視野に入れて、今、子供たちに身につけさせることと子供たちが存在するからこそ、地域の元気・活性化につながることを考えていきたいと思います。何れの日か、成長した子供たちが社会の一員として活躍し、我々がお世話になる日が来ます。子供たちに対する敬意と応援の念と責任の心を忘れずに教育活動にあたりましょう。

(2) 重点目標達成のための経営の重点

① 組織の方向性を定め、統一感と凝集性を高める各種会議等の充実、連携

☆ 研修会・モデル提示

一学年7学級以上、教職員も110名近くいるからこそ、何をどのようにするのかについて、具体的かつ体感的に理解することができるような、体験的・視覚的な研修や資料の提示が必須です。教職員は主体者として学び、責任をもって遂行することができるように質問や確認を行い、研修・提案があったことについては全教職員で確実に実践・評価・改善を行います。

☆ 児童への語りかけ

目的や目標に応じて、始業式や終業式の全校児童が集う場や学年集会、学級、個別、テーマ別集団等を活用して、チームリーダーや分掌担当、児童代表等が語る機会を意図的に設定します。

☆ 経営ミーティング

校長、教頭、統括主幹教諭、教務担当主幹教諭、養護教諭、主任主事により週1回程度実施。学校の運営等についての方向性や具体的な方途について提案や協議を行います。以下の会議等についての統括会議としても機能させます。

☆ チームリーダー会議

各チームリーダー（まなび・こころぽかぽか・こころわくわく・からだ・ふくまカリキュラム）と校長、教頭、統括主幹教諭により月1回程度実施します。「チーム会議」の前後に行います。

各チームからの進捗の報告や今後の方向性、取組等の提案を審議・協議します。

また、チーム間での提案の価値づけや連携（コラボ）企画等を積極的に検討します。

☆ 学年主任研修会

各学年主任と各特別支援学級チームリーダー（ひまわり・こすもす・たんぽぽ）、校長、教頭、統括主幹教諭、主幹教諭により月1回程度実施します。

学年経営に係る情報共有とともに、確認や統一しておきたい内容についての審議を行います。

職員会議で扱う内容と学年主任により周知を図る内容等について精査します。

☆ 各種校内委員会

特別支援教育や不登校、いじめ等、分掌等で集約した情報について、月1回程度校長、教頭と共に共有、審議します。緊急ないし重要な内容については臨時で召集を行います。

② チームの役割の明確化と具体的な目標、目的的な活動の設定、ふりかえり

各チームは、目指す子供の姿や指標に向かって各種活動を充実させ、評価、改善を行います。

【まなび】 子供主体の学びの実現と個に応じた学びの促進

チームが目指す子供の姿：「自分の思いや考えを表す子」

今年度力を注ぐ取組：

☆授業づくり…学年研修や主題研修において、「子供主体」（≠自主的）の学びを追究する。その際、相互メンター制を用いて教師の力量向上を図ります。

また、「授業びらき」研修等を充実させ、全教職員が具体的イメージや自信をもって学習指導を行うことができるよう、環境を整えます。

家庭学習についても学習内容等や苦手分野等を考慮し、子供にとって

の必要感や見通し、達成感を感じできるように工夫します。

☆ふくまっ子タイム…各種調査問題や結果を活かして、分かる、できる実感、努力の過程の自覚化を促し、苦手分野の克服と自信の獲得を目指します。

☆学習環境…子供達が学習内容や自身、他者のよさを実感し、自信や次の活動のきっかけとなるよう、学びの過程や成果が見える表現物を掲示します。

☆読書(昼活)…自身の興味関心や他者からの働きかけにより、多様な作品と豊かな言語文化に触れ、内言と外言の育成を図ります。

【こころ】 心理的安全を基盤とした「居場所」「集い」「活躍の場」の充実
チームが目指す子供の姿:

(ぽかぽか)「自分のよさに気づき、よさを育てる子」

(わくわく)「自他のよさを認め、笑顔あふれる学校・学級づくりに参画する子」

☆様相観察・心のアンケート・教育相談…多様な方法で子供の SOS を早期に捉え、安心感を基盤に課題解決の伴走と自己指導能力の育成を図ります。

WebQ-U を積極的に活用し、子供の困りや学級づくりに活かします。

☆組織的な対応…支援要請シートを活用し、内容共有とサポート体制の立案を行います。また、段階的に各種サポート会議(ショート・校内・拡大)を行い、適切な支援体制を構築します。

☆学級づくり…学級びらきや旗づくり等を行い、子供にとっての居場所や活躍の場のあるあたたかな学級づくりを行います。その際、教職員の体感や納得感を生み出す研修等を工夫し、全ての学級での実践につなぎます。

☆出番づくり・縦割り活動…「輝」(校内・イオン)をはじめ、子供達の活躍の場の設定や活躍の可視化を行い、自信や意欲につなぎます。また、異年齢の関わりにより、憧れや尊敬の念、大切な心、望ましい振る舞いを学ぶことができる機会を充実させます。

【からだ】 毎日と未来を支える健やかな心身の育成

チームが目指す子供の姿:「みんなで体を動かし、運動に親しむ子」

☆体力向上…自身の健康に関心を持ち、体力テストの結果や日常の実感から伸ばしたい力や克服したい課題に向き合い、体力向上に主体的に向き合えるように「体力キャリアシート」を活用します。

☆運動する機会の創出…ボールウィーク(大縄ゾーン)やスポチャレウィーク、朝のラジオ体操など、多様な運動をする場や機会を設けます。また、本校の体力テストの課題である柔軟性を高める運動についても体育科の学習や委員会活動において、工夫して取り組みます。

【ふくまカリキュラム】 子供も地域も関わった人も笑顔になる連続発展する「ふくまカリキュラム」

チームが目指す子供の姿:「地域に進んで関わろうとする子」

☆年間単元計画…昨年度までの事績と本年度の児童の実態に基づき、早めに地域コーディネーターや関係者と打合せながら学習支援を進めます。

その際、自身の学びの高まりや変容を実感できるように、学びの過程

の掲示やふくまっ子発表をはじめとする発表機会を充実させ、保護者や地域の方々への発信を積極的に行うとともに、感想を聞いたり心の通い合いを実感したりすることができるよう留意します。

☆地域行事への参加…CS委員会を中心に、地域行事について紹介したり積極的に参加したりすることを推奨します。また、対象の行事や参加状況等についても放送や掲示等で紹介し、地域行事への関心を高めます。さらに、各種教育活動で出会うGTやボランティア等の方々をはじめ、多くの方々との交流機会や学校に招待する機会等を設定します。

③ コミュニティ・スクール・学校運営協議会・地域学校協働活動の充実・推進

☆ふるさと学習を中心にした地域のひと・もの・ことの顕在化、つながりづくり

地域住民の学校教育への参画促進と子供たちからの働きかけや交流の充実を図ります。

☆学校、家庭、地域の目標の共有と課題解決の促進

保護者や地域住民、教職員、(子ども)が参画する企画立案型の熟議を行います。

めざす家庭像にせまるPTA活動への支援を行います。

☆関係者間での思いや願いの共有

関係機関等への訪問、交流機会の設定、充実を図ります。

④ 信頼を得られる学校、教職員でいるための仕組みや研修の充実

☆風通しのよい協働的な職員集団づくり

☆不祥事を生まない風土づくりと定期的な面談、研修の実施

・定期的な職員面談 ・飲酒運転再発防止をはじめとする各種不祥事防止策の徹底

☆危機に対する高いアンテナと未然防止、早期発見・早期対応、見届けと改善のサイクル化

☆「子供軸」を第一とする諸対応と関係者への丁寧な対応、連携

⑤ 時間の創出と成長と成果、働きがいの実感を得られる仕組みづくり

単純に働く時間削減のみではなく、工夫できることと軽重・効果を考えた働き方改革を推進します。

☆業務の効率化の促進

・ICT機器活用による業務の効率化、会議時間の短縮、削減を目指します。

・全員で共通理解したことは徹底して取り組みます。「当たり前化」「文化化」を目指します。

・業務の効率化に係るミーティングやフォームアンケート等の実施を行います。

☆「副担任制」「学年・チーム制」「専科・教科担任制」

・特別支援学級と交流学級の担任は、双方の副担任の意識をもって互いの学級経営に関わります。そのことが、子供にとって居心地のよい成長できる学級集団づくりにつながります。同様に、専科や教科担任も副担任の意識をもって学級・学年児童に関わり、経営に参画します。そのことが、教職員の力量向上や協働性、多様な価値観の感得、教育・経営の質の向上につながります。

★ふくまっ子の今と未来の笑顔を 子供たちと子供を取り巻く大人で育てましょう★